本格化
な柱に育成

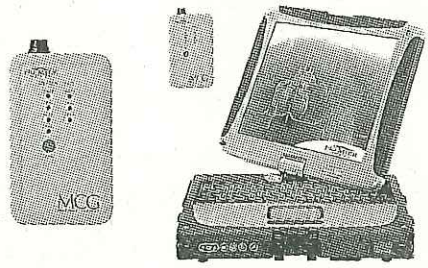
自動化学
定システ
。例えば
は、1
の免疫
なっていい
ィクス
な診断
システ
月上旬に
ンの病
した。
に展開
の7割
ウイル
感染症
トウエア
柱に育
、同シ
に開発し
ラムは
検討して
5年に設

立され、ベルギー・フランダース地方のバイオ企業としては草分け的存在。10年には富士レビオが欧州市場への攻勢の拠点と位置づけ買収し、100%子会社となっている。イノジェネティクスのクリスチャン・デ・ウィルデCEOは「富士レビオと組んだことで、当社の売り上げは前年比で10%増の伸びを示している。親会社の戦略と我々の技術のシナジーを生かし、欧州で高いシェア獲得を目指していきたい」と話している。

心臓検査にネット活用

心電計データで疾患判断 米社サービス導入

東レ・メディカル



東レ・メディカルはこのほど、米プレミアハートが開発したインターネット活用遠隔心臓検査サービス「MCG（マルチファンクションカーディオグラム）解析サービス」を12月から国内導入すると発表した。プレミア社製の専用ソフトウェアを搭載した端末機と、MCG解析に対応した自社製の長時間心電計を発売する。同サービスで年間1億円の売り上げを計画している。

MCG解析は狭心症や虚血性心疾患の新しい検査法。心電計のデータから周波数に関連するデータを取り出し、心筋の電気生理学な変化をとらえることで、心筋虚血の状態を高精細に検知できるという。

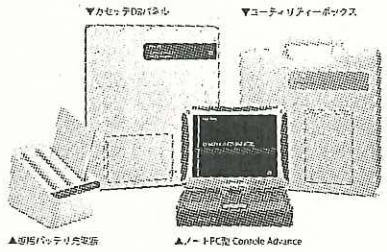
心電計のデータをインターネット経由でプレミアハートに送り、コンピュータで周波数を解析。それを約4万人のデータベースと照合させることで、5分程度で虚血性心疾患の有無が判断できる。冠動脈造影検査と比較して感度は90%という。米国ではFDA認可と保険コードも取得している。

虚血性心疾患は重度になると冠動脈造影検査を実施する。そうなる前に非侵襲のMCG解析を行うことで早期発見につなげられる。また同解析でステント挿入後の再狭窄を調べることもできる。

価格は端末機と心電計のセットで500万円くらいになる見込み。

自動X線検出機能搭載 ケーブル接続不要のDR発売

富士フイルム



富士フイルムは、世界で初めて自動X線検出機能を搭載することでケーブル接続が不要になったカセッテ型デジタルX線画像診断装置（DR）「カルネオ フレックス」（写真）を25日に販売開始すると発表した。発売後1年間で全世界で200システムの販売を計画している。

DRパネルに同社が世界で初めて実用化した自動X線検出機能を搭載。

いて、新薬承認申請が米食品医薬品局（FDA）に受理されたと22日発表した。早ければ来年中にも承認される見込み。中枢神経疾患（CNS）領域で先頃提携したデンマークの製薬企業ルンドベックと共同販売する方針。

今年9月から承認手続きを開始、今月21日付で申請受理された。錠剤や内服液などで展開しているエビリファイの徐放性製剤（月1回投与）で、統合失調症の維持治療の適応で申請した。日本、欧州では第3相臨床試験中。

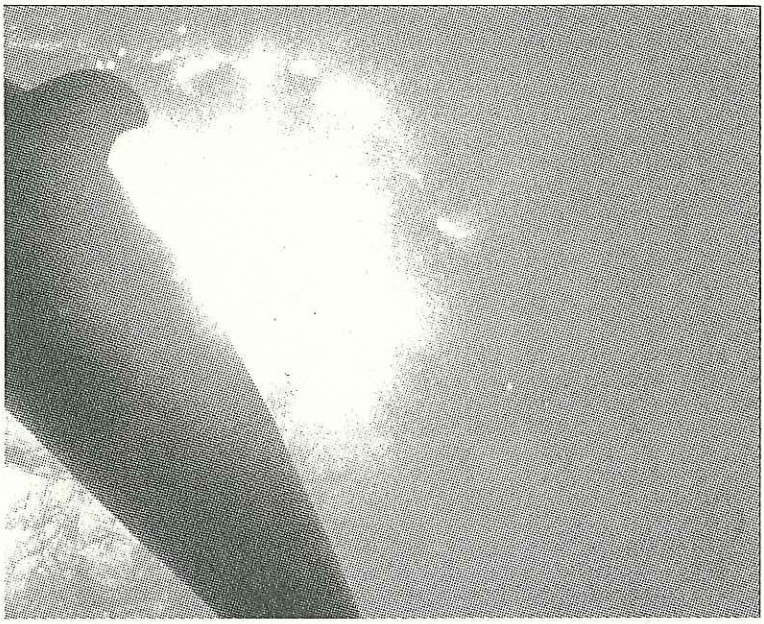
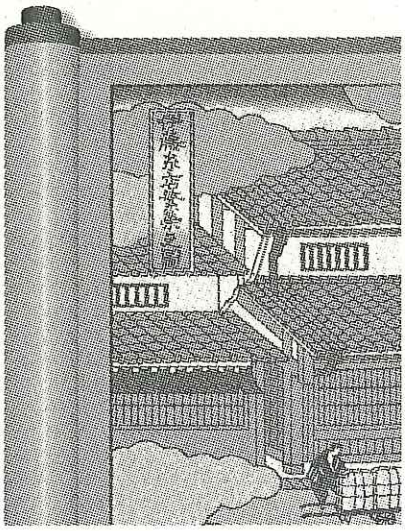
月1回投与剤は、ヤンセン ファーマの「インヴェガ」などが米国で製品化されている。

後発薬10成分、子会社通じ近く発売

エーザイ

エーザイは、子会社エルメッドエーザイを通じて後発医薬品10成分を近く発売する。両社の医薬情報担当者（MR）が連携して医療機関などに採用を働きかける。エーザ

に変える必要はなく、外　語にする必要がある。英
会にぜひ加盟しても



2011.11.25
化工日報